

## 第 19 回筑波動物実験審査委員会 議事概要

1. 日時：平成 30 年 12 月 19 日（水）13 時 30 分～13 時 55 分
2. 場所：国立研究開発法人理化学研究所 筑波地区  
バイオリソース棟 1 階 森脇和郎ホール
3. 出席者：  
（委員）八神委員長  
阿部、綾部、小倉、川嶋、篠原、谷内、田村、吉木各委員  
（機関代表者）宍戸所長  
（説明者）次世代ヒト疾患モデル研究開発チーム（天野）、疾患ゲノム動態解析技術開発チーム（阿部）、  
バイオリソース研究センター（小幡）  
（事務局）安全管理室（鯉渕、佐藤、太田）  
（つくば市委員随行者）つくば市生活環境部（矢口）
4. 配付資料  
資料 1 第 18 回筑波動物実験審査委員会 議事概要  
資料 2 動物実験計画承認申請（新規 1 件、変更 2 件）  
参考資料 1 動物実験実施規程  
参考資料 2 動物実験審査委員会細則  
参考資料 3 筑波動物実験審査委員会運営規則  
参考資料 4 筑波 動物実験の手引き
5. 会議の概要
  - 1) 開会挨拶  
宍戸所長より、開会の挨拶があった。
  - 2) 資料確認  
事務局より、配付資料の確認があった。
  - 3) 前回議事概要  
事務局より、第 18 回筑波動物実験審査委員会（平成 30 年 6 月 27 日開催）議事概要について、既に確認を終え、ホームページに掲載している旨、報告があった。
  - 4) 審議事項  
動物実験計画承認申請について  
動物実験計画承認申請（新規 1 件、変更 2 件）について、動物実験責任者より説明があり、質疑応

答の後、審議が行われた。

質疑応答・意見の詳細及び審議結果は以下のとおり。

**【T2018-実 011(新規)】 ヒト疾患モデルマウスの解析**

(質疑応答・意見)

質問. 野生由来マウス系統として JF1 マウスを使用するとのことであるが、MSM マウスは使用しないのか。

回答. MSM マウスは使用しない。

質問. 疾患モデルマウスの作製ではアルツハイマー病とヒルシュスプルング病に関連するバリアントを有したマウス胚を作製するとのことだが、観察期間中に病気が発症した場合はどのようなことが予想されるか。またその際の動物福祉に関する措置はどのように行うのか。

回答. アルツハイマー病については、脳機能の変性が起こることから、行動と状態を観察し、摂食・飲水の困難や体重減少が認められた場合は、その時点で安楽死処置を施す。またヒルシュスプルング病については、腸閉塞に伴う摂食・飲水の困難等が認められた時点で安楽死処置を施す。

質問. 非組換えマウスの使用予定数算出の根拠において、遺伝子発現解析の算出に誤りがあるのではないか。

回答. 誤りであるため修正する。

意見. 申請書を修正し、事務局の確認を得ること。\*

※本意見の対応

実験責任者より申請書における使用予定数算出の根拠について修正され、事務局よりその内容について確認された。(平成 30 年 12 月 19 日)

質問. 使用予定動物数は系統の維持繁殖等に使用する動物数を含めた総動物数を記入することになっているが、申請書には繁殖の使用予定数は含まれているのか。

回答. 実験に使用し、殺処分するものを使用予定数として記載した。実験の進捗状況によっては自家繁殖していくことになるが、それらの動物数については計画書に記載していく。

質問. 使用予定数に変更となる際は変更申請を行うのか。

回答. 適宜、変更申請を行う。

質問. 今回申請された実験は標準解析パイプラインでマウスの解析、その後適正な病態評価を行うことであり、今後の実験の進捗状況によって、実験内容や実験操作を追加していくということか。

回答. そのとおりである。

(審議結果)

承認

**【T2018-実 012(変更)】 哺乳類初期発生とゲノム再プログラム化の発生遺伝学的解析**

マウスにおける使用予定数削減の変更

(質疑応答・意見)

特になし。  
(審議結果)  
承認

【T2018-実 013(変更)】 バイオリソース研修事業等に関するマウス利用計画  
動物実験責任者の変更  
(質疑応答・意見)  
特になし。  
(審議結果)  
承認

5) 閉会挨拶

小幡センター長より、閉会の挨拶があった。

以上